



高等教育機関と連携した創造的な 学びの創出について

長野県立大学グローバルマネジメント学部
准教授 東 俊之(あずま としゆき)
azuma.toshiyuki@u-nagano.ac.jp

本日の内容

- ①長野県立大学と県内高校の連携
(発信力ゼミにおける取組みを中心に)
- ②今年度の取組みと今後に向けての展望
- ③高校生に対して期待すること

①本学と県内高校の連携

1)「発信カゼミ」での連携（その1）

○2018年6月20日（水） 1限目～2限目

- ・長野県教育委員会事務局 教学指導課 職員（約5名）による「発信カゼミ」（7組 東クラス）の授業見学
- ・懇談（金田一真澄学長、グローバルマネジメント学部 馬場智一准教授、学務課入試・広報係 馬場武親課長補佐、同席）

（内容）

⇒PBL型の授業の見学（テーマ「長野県の伝統産業を活性化させる」）

⇒今後の打ち合わせ

（中間・最終報告会等の高校教員の授業見学の調整）

①本学と県内高校の連携

1)「発信カゼミ」での連携 (その2)

○2018年11月28日(水) 1限目～2限目

- ・県立高校教員7名(中野西、北部、長野、長野吉田、野沢南、松本美須々ヶ丘、松本深志)十県教育委員会職員2名による「発信カゼミ」(7組 東クラス)の授業見学
- ・研修会(馬場智一准教授、同席)。

(内容)

- ⇒「伝統産業」の課題解決の提案(グループ活動)の見学。
- ⇒PBLに関する授業担当者と高校教員による意見交換 (別スライドにて報告)

①本学と県内高校の連携

1)「発信カゼミ」での連携（その2）

○2019年1月23日（水） 合同発表会 見学・研修（予定）

- ・公立高等学校教員および生徒（定員30名）

※生徒については、探究学習のコアメンバー、ファシリテーターなど中心的な役割を担う生徒を想定

- ・1限目：発表会の見学、2限目：大学の概要説明および意見交換会（授業担当者および学生との懇談を予定）。

（内容）

⇒各クラスが混在する教室にて見学。「評価シート」の記入も担当する

⇒授業担当者および教員との懇談により、探究活動や課題発見型学習の質の向上を目指す。

(参考)長野県立大学「発信力ゼミ」とは

「自分から問いを探し、情報・知識を収集、それを文章や発表を通じてアウトプットし、さらに議論・検討する」

○大学の学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの習得、学びへの積極的な姿勢や文章やプレゼンテーションなどによる自らの考えを表現するための発信力の獲得を目標としている。

○全学生247名を、学部・学科を超えて15クラスに分けて、水曜1時限に通年実施。(1クラスあたり約16名)

○大学に慣れること、ノート作成・情報収集・グループ活動等の方法論も学んでいる。

(参考)長野県立大学「発信力ゼミ」とは

○クラス分けは授業担当教員の専門分野からテーマを1つあらかじめ示して、希望をとっている。

(東クラスでは、「伝統産業」をテーマにしている)

○授業内容は、授業担当教員の裁量に任せている。

(次年度は変更する予定)

○東クラスの授業内容

前期(1・2学期):オリエンテーションやアカデミックスキルズの修得、PBL学習の方法論を学ぶ

後期(3・4学期):個人研究、グループ活動、発表準備、合同発表会(プレゼン)

①本学と県内高校の連携

2) その他、県内高校との連携

- 「象山学」への市立長野中学・高校の生徒の参加
(1回の授業に参加し、ゲストスピーカーの講義を聴講)
※象山学: 起業家や経営者、行政関係者など、多様な
ゲストスピーカーを迎えて行う講義
- 長野吉田高校「探究学習」1年生の「学年発表会」での
本学学生の模擬プレゼンテーション(2019年2月18日予定)
- 須坂高校における「哲学対話」の実施(馬場先生)

②今年度の取組内容と今後の展望

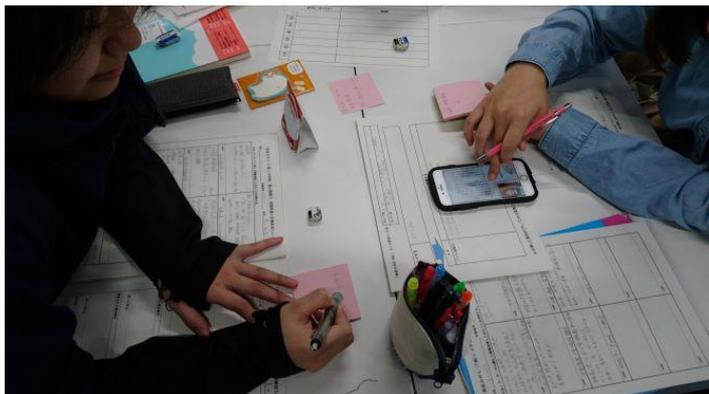
1)「発信力ゼミ」における教員研修（11月28日）



- ・県立高校教員7名（中野西、北部、長野、長野吉田、野沢南、松本美須々ヶ丘、松本深志）
- ・県教育委員会 教学指導課2名
- ・テーマ「『伝統産業』の課題解決の提案」（第2回）
PBL型のグループ活動を実施。

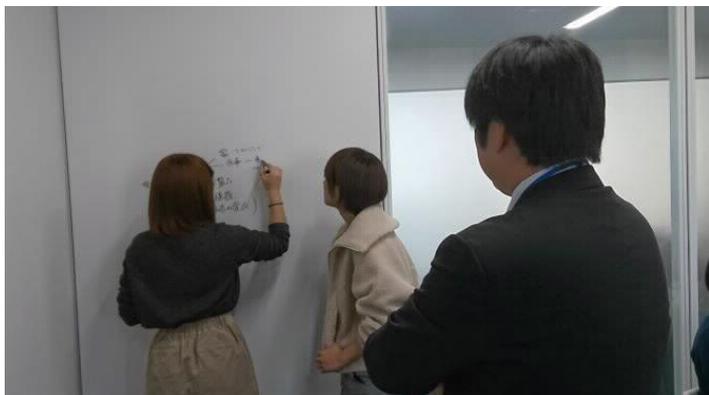
②今年度の取組内容と今後の展望

1)「発信力ゼミ」における教員研修（11月28日）



- ・スマホを使って情報収集
- ・ワークシートに記入

- ・ポストイットの使用
- ・BS & KJ で情報整理



- ・ホワイトボードになる教室の壁を使用し、情報整理

②今年度の取組内容と今後の展望

1)「発信カゼミ」における教員研修（11月28日）

○PBLの効果と課題について:意見交換

- ・学生の主体性、協調性、コミュニケーション力などは確実に成長(県教委)
- ・テーマ設定が重要。途中で変更することが有用な場合もある。グループで議論することも必要(授業担当者)
- ・PBLには「型」(ワークシート)が重要。「型」がないと主体的に進められない学生もいる。ただし「型」を課題やメンバーの質・人数によって変更が必要。今回の授業で使用したのも“手探り”で作成(授業担当者)
- ・自分達らしい提案を引き出すことが不可欠(授業担当者)

②今年度の取組内容と今後の展望

1)「発信カゼミ」における教員研修（11月28日）

○学生の反応・状況について：授業担当者の観察

- ・いつもより生き生きとディスカッション（はりきっていた）
- ・見学に来られた高校教員からも情報提供を受けて、参考にしていた。
- ・前期にグループ活動をしていた時よりも、楽しく活動できている。
- ・ただし、情報収集と情報整理は今一つ。インターネットの情報のみ頼りがち。

②今年度の取組内容と今後の展望

2) 今後の展望

・今年度は開学初年度ということもあり、高大連携の制度が十分に整っていなかった＝十分な連携はできていない



・「発信カゼミ」の活動や経験を生かした本学と高等学校との連携を検討中

★高等学校における探究活動や課題発見型学習へ、本学学生（「発信カゼミ」単位修得の2年生以上）が「メンター」や「アドバイザー」として参加することを模索中

※既にいくつかの高校から打診があり

★ただし、授業へ参加するためにはそれなりの知識やスキルが必要⇒どのように教育するかが課題

③高校生に対して期待すること

①自ら問いを立てて、解決策を考える姿勢を

⇒「学問する」という意識を少しでも持ってほしい

②情報は鵜呑みにせず、多角的・批判的に検討を

⇒スマホやインターネットで、いつでも、どこでも、なんでも調べられるのか？

⇒情報を集め、その情報について考えることを習慣づけてほしい

⇒身体を使って情報収集

※明確な解答のない問いに挑戦し、自ら情報を集めて、批判的に考察する意識を!!



長野県立大学
THE UNIVERSITY OF NAGANO

ご清聴 ありがとうございました

(連絡先)

E-mail: azuma.toshiyuki@u-nagano.ac.jp

勤務校住所: 〒380-8525

長野県長野市三輪8-49-7

(長野県立大学グローバルマネジメント学部)